



子どもに起こりやすい事故と けがに対する応急手当

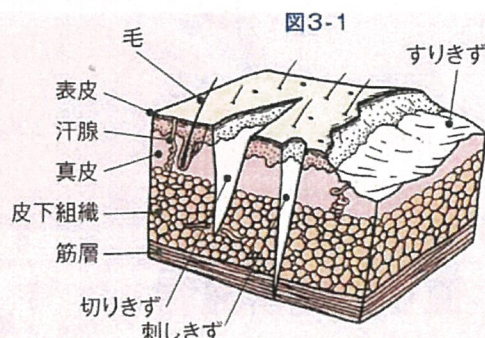
子どもは、日常生活の中で、けがをする頻度は高く、正しく手当を行わないと、その後の治療に影響し、危険な状態になることがあります。

きず

きずには、出血、痛み、細菌感染の危険性があります。

きずの種類

- すりきず 皮膚をこすったきず。出血、痛みがあり、浅くても範囲が広い。感染を起こしやすい。
- 切りきず きずが大きく出血が多い場合は、医師による縫合が必要な時もある。
- 刺しきず きず口が小さくても深くまで達していることがあり、その場合は感染を起こやすく、胸・腹部の刺しきずでは内臓を損傷している恐れあり。
- 咬みきず 動物や人に咬まれたきず。きず口から感染を起こす危険がある。



◆手当◆

- 子どもを安静にして、全身の状態をよく観察する。
- きずの手当をするときは、必ず手洗いをする。
- きずの汚れを水道水で洗う。
- 出血していたら、**直接圧迫止血**
- ガーゼ・ハンカチ（保護ガーゼ）をあてて、**包帯法**

こんな時は、医療機関へ

- 動物や人間の咬みきずがあるとき。
- 深いきずや、泥などの汚れが内部に残るきずがあるとき。
- 出血が多い、または止まらないとき。
- 大きなガラスの破片や刃物などが刺さったとき。
- 傷口が大きいとき。
- 骨などが露出しているとき。

骨折

骨折の症状は、受傷部位を触った時の激痛、腫れ、変形、皮膚の変色などです。少しでも骨折の疑いがあれば、骨折の手当をしましょう。

◆手当◆

- 全身及び骨折部の安静
- 骨折部を**固定**する。変形していても戻さない。
- 全身の保温
- 手当が完了したら、医療機関へ連れていく。

固定

患部や患部の上下の関節を固定して、患部の動揺を防ぐこと。痛みの緩和、出血防止、新たなきずを防止する効果がある。

※ストッキングと副子（雑誌で代用）を使った前腕の固定⇒

